

日時：令和5年3月2日（木） 13：30～15：30

場所：釧路地方合同庁舎 5階 共用第1会議室

釧路湿原自然再生協議会

第12回地域づくり小委員会

議事要旨

■議事次第

- 1) 話題提供
 - ・道東ホースタウンプロジェクト 岡本氏
 - ・北開水工コンサルタント 石黒氏
- 2) 令和4年度 地域づくり小委員会取り組み状況報告
 - ① 小委員会事案
 - ・カヌーポケット版の公表、広報施策の展開
 - ・農業事業者との連携継続
 - ・自然再生事業箇所の地域づくり利活用の推進
 - ② 委員事案

話題提供のあと、令和4年度の地域づくり小委員会取組状況について小委員会事案、委員事案の順に報告があり、それぞれについて意見交換を実施した。

■議事1:話題提供 :

道東ホースタウンプロジェクト 岡本氏「かわたび×うまたびプロジェクト」

<内容の概要>

道東ホースタウンプロジェクトは、道東地域において「馬事振興」による「地域振興」を目的としたプロジェクトを立ち上げ、標茶町の掲げる『馬と共に暮らせる町…標茶』の具現化を進めている。近年では、釧路川や釧路湿原を観光資源とした観光プログラムの開発に取り組み、釧路川を移動すること自体が観光・イベントとなる新しい旅を提案するための観光ツアーの実証実験を始めている。

観光ツアーは、釧路湿原や釧路川流域全体の移動アクティビティを楽しみ、自然環境を学ぶエコツーリズムの考え方に則したものである。観光のコースは、屈斜路湖から釧路川河口までとして、様々な方法（馬、カヌー、自転車等）により約90kmを移動する。

全長90kmのコースのうち、約半分程度を対象とした実証実験から、移動が観光であることの新鮮さと面白さ、乗馬の圧倒的な魅力が評価された。今後に向けて、河川敷や湖沼への馬の立ち入り・乗り入れ、点在している馬事事業者との連携、釧路川の歴史等を学べる内容の企画を強化、充実化が必要となった。

<意見交換>

《委員》

- ・よりツアーの価値を高めるため、釧路川の歴史に加えて環境保全に関する取り組みについて、考えていることはあるか。

《道東ホースタウンプロジェクト 岡本氏》

- ・まずは、馬や釧路川・釧路湿原を活用したツアーにどのくらい魅力があるか検証している。検証を進めていく中で、観光を楽しむだけではなく、歴史や環境保全といった内容に関心を持つ観光客もいたことから、今後、意見も踏まえて考えていきたい。

《委員長》

- ・実証実験を踏まえてビジネス化を図るにあたって、コストと参加費用等、課題はあるか。

《道東ホースタウンプロジェクト 岡本氏》

- ・本プログラムの核であるホーストレッキングについて、馬の手配や移動に多くの費用が掛かるため、点在している馬事事業者に参画してもらえるようなツアーにしていくことが必要である。

《委員》

- ・ツアーとして宿泊・食事はどのようなことを考えているか。

《道東ホースタウンプロジェクト 岡本氏》

- ・周辺に宿泊施設があることが望ましいと考えており、茅沼に開業が予定される温泉施設との連携、また、道東ならではの食を提供して、ツアーの充実化を考えている。

《道東ホースタウンプロジェクト 岡本氏》

- ・国立公園内である塘路湖やシラルトロ湖で馬に乗れることというのは、魅力的なプログラムが提供できると考えている。環境負荷を配慮した上で、試行できるようにしたい。

《環境省釧路自然環境事務所 柳川氏》

- ・より魅力的なプログラムとなるよう、国立公園内であってもホーストレッキングが行えるよう、具体的な要望のもと協力したい。

北開水工コンサルタント 石黒氏「釧路湿原における地域貢献活動」

<内容の概要>

北開水工コンサルタントは、水質調査、環境調査や堤防等の河川管理施設の点検等の業務を行っている会社である。業務内容の一つである河川巡視において、巡視の担当者の大半が女性であり巡視区間内にトイレを利用することができる施設が限られていることが課題となった。また、巡視経路である細岡カヌーポートでは、カヌー利用者等からもトイレ設置の要望を受けている。このことから、北開水工コンサルタントでは地域貢献の一環も踏まえて試行的に仮設トイレを設置した。

仮設トイレは、関係行政機関との協議を行い普通地区として、男性用1基、女性用1基を9月10月の2か月の間、設置した。設置後の維持管理は、試行運用として、設置後1カ月は利用者のモラルある行動により利用いただくため、特別な清掃を行わないことにした。残りの1カ月は、

汲み取りや洗浄液の交換を適宜、実施した。平日と休日の利用実態調査による利用状況は、約 7000 人の施設利用者に対して、約 20%の 1400 人がトイレを利用した。

仮設トイレを設置したことによりカヌー利用者だけではなく、観光客からも好評が得られることができた。また、当初は維持管理の面が懸念されたがモラルある利用により、河川環境・河川利用上問題が発生しなかった。

<意見交換>

《委員》

- ・カヌー事業者として、これまでにトイレ利用等はどのようなかたちで管理運営されていたのか。

《委員》

- ・協会として、トイレを設置することは予算上、難しい面があることから、隣接する施設を利用させていただく形をとっている。

《道東ホースタウンプロジェクト 岡本氏》

- ・私たちが実施した有償で行ったツアーでは、軽トラックにトイレを搭載したトイレ車を利用したことがある。トイレ車が並走することにより、安心感もありストレスの低減にもつながったと考えている。

《委員》

- ・河川管理者として河川法に基づき河川利用を進める立場として、トイレ設置の第一歩をなかなか踏み出すことが出来ていない状況だった。地域貢献の一環でトイレ設置を実施されたことに大変感謝している。

《委員》

- ・土地管理、河川管理、責任の所在、不特定多数が利用といったことが取り巻く中、ニーズの高いトイレは設置に向けた連携を行うとともに、持続的に使用できる仕組みが必要である。

■議事2: 令和4年度 地域づくり小委員会取り組み状況報告

<意見交換>

【カヌーポケット版の公表、広報施策の展開】

《委員》

- ・カヌーポートに設置している入川届の箱は、使用されていない状態であった。そこで、カヌーネットワーク協会が個人情報遵守のもと、入川届申し込みフォームを作成した。カヌーガイドラインポケット版には、入川届・カヌーガイドラインを読み込むことが出来る二次元バーコードを追加したことにより、カヌー利用者が現地で釧路川・釧路湿原の自然を安全に楽しむことができるようになると考えている。

《事務局》

- ・二次元バーコードを追加したカヌーガイドラインポケット版は、現在印刷中であり今後、一般に配布し、より安全なカヌー利用に繋げていく。

【農業事業者との連携継続】

《委員》

- ・ 釧路湿原で行っている自然再生事業について、集水域全体でどのように保全、再生を進めていくのか、といった観点は重要であるため、農業事業者との連携は必要である。

【自然再生事業箇所の地域づくり利活用の推進】

《委員》

- ・ 自然再生箇所の利活用について、カヌーで釧路川を下る際に旧川復元事業を行った茅沼地区の蛇行河川付近で上陸し、見学できるようにしてみてもどうか。

《事務局》

- ・ 茅沼地区では、市民を対象とした現地見学会の際に蛇行河川上流端の右岸側に上陸し、現地状況を体験していただき自然再生事業の効果等を説明するなど、活用を図っているところである。

《委員》

- ・ 自然再生工事が進められている幌呂地区について、小高い箇所から見渡せると観光として利用できるのではないか。

《事務局》

- ・ 現状での小高い箇所は、自然再生箇所から遠いので鶴居村との協議も行い、場所を選定する検討を考えていきたい。

【委員事案】

《委員》

- ・ サイクリングやカヌーは、自分の体を使ったアクティビティであり、二酸化炭素の排出が少ないことから、カーボンニュートラルといった観点で、旅行に付加価値を付けることができると考えている。

■閉会

- ・ 本日の小委員会で議論された内容について今後検討を進め、次回の小委員会で委員各位とともに議論を進めていきたい。